

# すぎなみの街と自然

人と自然との出あいを大切に

第136号

令和6(2024)年1月

杉並区

環境部環境課

温暖化対策係

だいはちじすぎなみくしぜんかんきょうちょうさ  
第8次杉並区自然環境調査 鳥類調査の途中経過など

文・写真 すぎなみくしぜんかんきょうちょうさ 杉並区自然環境調査 鳥類調査員

中村忠昌

## 1. 鳥類調査の途中経過

だいはちじしぜんかんきょうちょうさ 第8次自然環境調査で鳥類調査を担当しています。調査はまだ継続中なのですが、その途中経過として確認できた鳥たちについて少しお話ししたいと思います。なお、今回のお話は私の担当する9ルートでの範囲のお話になります。全20ルートの結果などに関しては、最終的な報告書が出た際にご確認いただければと思います。

### ① 猛禽類

写真にあるオオタカとツミ。どちらもタカの仲間です。オオタカはカラスほどの大きさで、時代劇の鷹狩りのシーンなどに登場する鳥です。一方、ツミはよく似ていますが、ハト大かそれより小さい小型のタカです。杉並区内では、オオタカは2006年の第6次調査から、ツミは2013年の第7次の調査から増え始め、今年度の第8次でも既に私の担当ルートで確認しました。しかも、確認したツミは今年生まれの幼鳥のようで、ルートの付近で繁殖したようです。どちらも人気の鳥で、繁殖地保護の観点から正確な場所は記述できないのですが、これらの猛禽類が生息し、繁殖が成功していることは、杉並区内の自然が豊かになっているバロメータになっていると言えます。



オオタカ（11月6日確認）



ツミ（7月14日確認）

## ② 「<sup>たびどり</sup>旅鳥」の小鳥類

写真のキビタキやコサメビタキがこれに当たるのですが、「<sup>たびどり</sup>旅鳥」という言葉はちょっと聞きなれない言葉かもしれません。少し説明します。

区内の鳥を一年のどの時期に見られるかで分類する場合があります。一年中区内にくらす鳥は「留鳥（りゅうちょう）」と呼び、スズメやハシブトガラス、カルガモなどが当たります。一方、<sup>わた</sup>渡りをする鳥のうち、夏だけ、あるいは冬だけ見られる鳥もいて、それぞれ「夏鳥（なつどり）」「冬鳥（ふゆどり）」と呼びます。前者はツバメが有名で、後者はこれからの季節にやってくるカモ類やツグミなどが含まれます。

上記のいずれにも当たらず、春と秋のみ、<sup>とちゅう</sup>移動の途中で立ち寄るキビタキのような鳥たちのことを「<sup>たびどり</sup>旅鳥（たびどり）」と呼びます。これらの鳥は、例えば夏は日本国内の<sup>きゅうりょうち</sup>丘陵地や<sup>はんしよく</sup>山地などで繁殖し、冬には東南アジアなどに<sup>わた</sup>渡って暮らします。杉並区には、<sup>すきなみく</sup>繁殖場所と<sup>はんしよく</sup>冬を越す場所の両地点を移動する際に、休息や栄養補給のために立ち寄ります。キビタキやコサメビタキのほかに、私の担当ルートでは、今年だけでセンダイムシクイやエゾムシクイ、エゾビタキ、サンコウチョウなどを確認しました。



キビタキ（10月12日確認）



コサメビタキ（10月12日確認）

ただ、ここで注意です。例えばキビタキは、<sup>すぎなみく</sup>杉並区では「旅鳥」であっても、日本全土でみると、国内の山地などで<sup>はんしよく</sup>繁殖をするので「夏鳥」になります。どの<sup>はんい</sup>範囲を対象にして考えるかで見られる時期（=<sup>わた</sup>渡りの区分）が変わるので、用語の使い方には注意が必要です。

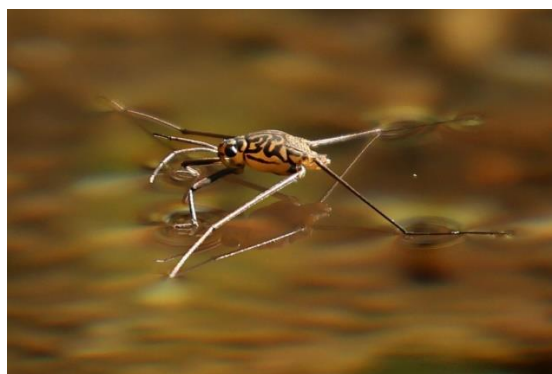
### ③ その他

鳥類調査とは言っても、鳥類以外の生きものに出会うことも少なくありません。個人的に他の生きものも好きなこともあり、これまでの調査でも、アオダイショウやクサガメ、ニホンカナヘビなどをみつけては、鳥類と一緒に報告しています。10月には、シマアメンボという、過去には第5次の<sup>こんちゅうちようさ</sup>昆虫調査でしか見つかっていない種も確認できました。

<sup>しぜんかんきょうちようさ</sup>自然環境調査は非常に大規模なものではありますが、それでも限られた時間で行われています。できるだけ多くの生きもの情報が集まるように注意を<sup>はら</sup>払っています。



アオダイショウ（4月1日確認）



シマアメンボ（10月12日確認）

## 2. 鳥類調査中の「こぼれ話」

調査はまだ途中で多くの内容は語れないので、あまり<sup>なじ</sup>馴染みのない鳥類の調査方法についてお話ししようと思います。とは言っても、<sup>こむすか</sup>小難しいことは報告書に任せて、こぼれ話的なものをいくつか紹介します。

### ① <sup>あや</sup>怪しまれないようにしています

鳥類調査は、区内全域に設定された20のルートに沿って調査を行います。時間があれば報告書を見てほしいのですが、植物や<sup>こんちゅうるい</sup>昆虫類の調査は、公園や緑地、寺院、大きな個人宅など「いかにも」な場所で調査をします。それに比べて鳥類

調査は、市街地や住宅地の中もルートになっています。そんな中を双眼鏡や望遠レンズのついた大きなカメラを持った人間がウロウロすると、かなり怪しまれるはずで

す。そんな時に役立つのは、大きな画板と腕章です。大きな画板に時々、熱心にメモをしていれば、何か大事なことをやっている雰囲気が出ます。腕章は黄色く目立ちますが、角度によっては見えないので、わざとさりげなく見えるようにして歩いたりしています。



調査で使う画板と腕章

## ② トイレはどこですか？

鳥類調査は、午前中に行うことになっていますが、なるべく鳥が確認しやすい朝早くに実施するようにしています。すると、時々ですが、トイレに行きたくなる「緊急事態」が発生します。こんな時は、必死にスマホを駆使してコンビニや公園を探さねばなりません。いまではすっかりトイレの位置が頭に入りましたが、区内には小さな公園でもトイレが設置されていて大変助かっています！こんな時のために、水に流れる●●も常備しています。コンビニもよくお世話になります。利用後は何かを買うようにしています。おかげで100円の「カロリー●イト」がたびたび調査中のおやつになっています。

## ③ いい運動になります

調査中には鳥の写真を撮るために一眼レフカメラを持ち歩きます。ですが、撮影チャンスは少なく、報われないこともたびたびです。とはいえ、持っていない時に限ってアオゲラやエナガが現れたりするので、肩こりと戦いながら持ち歩いています。

また、各調査員は一日あたり2~3つのルートを踏査します。ルート同士が近いとよいのですが、離れているとルート間の移動だけで20分以上歩く



調査で使用している双眼鏡とカメラカメラはだいぶ軽量化していますが、それでも2kg以上あります

こともあります。「自転車があれば？」と思われるかもしれませんが、なるべく無駄むだのない「一筆書きひとひらが」で歩いた方がロスが少なく、結局歩いてしまいます。とはいえ、夏の調査ではいつも汗びっしょりになっていました・・・。

#### ④ 区民の方とのふれあい

一見怪しい調査員ですが、区民の方は意外と気さくにお声を掛かけてくださいます。特に善福寺川沿いでカワセミやカルガモを撮影さつえいしていると、特に気になるようです。

ある時は、ご自分の地元のお話として、「セキレイのことは地元じゃ“石たたき”って呼んでいた」と聞かせてくれました。この別名のことは知識としては知っていましたが、実際にお話しされる方は初めてで新鮮しんせんでした。ちなみに東北の方の呼び方のように。



「石たたき」の別名のあるせきれい鶺鴒せきれいの一種 ハクセキレイ

### 3. 最後に

この原稿げんこうを書いている11月の調査では、善福寺公園の池や善福寺川に、冬鳥のカモ類がやって来始めました。ジョウビタキやシメといった小鳥たちも北の国から渡わたって来ています。これから残り4か月の調査がとても楽しみです。また調査の結果をご報告できることを楽しみにしています。